

# やいた未来ミーティング（子育て世代）会議録

日 時：令和元年9月12日（木）

19：00～20：40

場 所：矢板市生涯学習館

出席者：市長

川崎小学校PTA役員 3名

1 開 会 19：00 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

平成28年7月から2年間をかけ、矢板市内65行政区で「未来づくり懇談会」を行った。1,100名を超える市民の方から意見や要望があったが、参加者の8割は60歳以上という状況であった。それを受けて平成30年度は「未来づくり懇談会」を補完する形で、子育て世代や市内3つの高校生、矢板市PTA連絡協議会を対象とした「やいた未来ミーティング」を10回開催した。今年度は、小中学校単位で開催し、意見や要望を聞かせてもらいたい。

3 説明事項

「矢板市子ども未来基金の創設について」

市長

この基金を始めたきっかけは、子ども医療費助成制度の問題からスタートした。矢板市では、平成24年度から高校3年生まで医療費の無償化をしているが、無償化の方法としては、医療機関の窓口で支払い後、手続きをしてお金が戻ってくる償還払方式。

近年、栃木県内の市町では、医療機関の窓口で支払いが必要ない現物給付方式が増えてきたことから、矢板市としてどうするかを平成30年度に検討を行ったところ、同じ医療費の無償化でも、現物給付方法にすることで、矢板市の負担額が大幅に増えることがわかった。

理由としては、病院に行くほどでもない病気等であっても受診してしまう医療のコンビニ化や、国の負担金や県の補助金の減額がある。また、他の医療費助成制度を利用しなかったり、各種健康保険の付加給付が受けられないなどがあった。他にも小中学生など加入している、日本スポーツ振興センター保険を手続きが面倒くさいと言って利用しないなど複数の要因がある。

現物給付を行っている市町の医療費の伸びを見て試算したところ、中学3年生まで現物給付を拡大した場合には年間4,500万円、高校3年生まででは年間6,200万円も負担が増えることが確認された。

これらの要因を踏まえ検討した結果、市としては現物給付ではなく、中学3年生まで

拡大した場合の4, 500万円をもっと違った使い方にしようと、子ども未来基金を創設し、子ども子育て支援に繋がっていくような取り組みをしようと決断をした。

基金の用途については、平成31年2月から3月にかけてPTA役員にアンケート調査を実施し、1番多かった給食費の助成と4番目の小中学校の学用品購入の助成とした。2番目に多かった予防接種の助成拡充については、平成31年4月からインフルエンザの予防接種の助成年齢の拡大が1月の時点で決定していたことから除外とした。3番目の学校施設の整備や備品購入についても、具体的な内容を聞いてみたところ、エアコンの設置であった。エアコンの設置についても、1月の時点で全ての小中学校の普通教室にエアコンを設置することで決定していたことから除外とした。

本年度は、基金4, 500万円の3分の2となる3, 000万円くらいを使用する。

また、償還払い方式の利便性向上として、我々の努力不足もあったかもしれないが、平成30年度に実施した懇談会で、1レセプト500円かかるとか、申請方法が複雑、郵送申請についても意外と知られていなかったことから、平成31年4月から子ども医療費の申請書類と郵便受取人払いの封筒を医療機関に設置することとした。

償還払いは面倒だと思う方は多いと思うが、まだまだ利便性を向上できるのではないのかと思っているので、市では現物給付の対象年齢を引き上げないという選択をした。

その上で限られた財源用途を、引き続き皆さんをはじめとする小中学生の保護者の方から声を聞きたい。年度末にはもう少し広い範囲でアンケート調査をしたいと考えている。ムリ、無駄のない「矢板モデル」という医療費助成の制度や、子育て支援制度を確立していきたいと考えている。

### 3 意見交換テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

市長

テーマに入る前に材料を提供したい。本年度の矢板市立小中学校5大ニュースということで、一つ目は全国学力テストで市内の小学6年生が昨年につき、全教科で全国平均を上回った。全国学力テストは、全国の小学6年生と中学3年生を対象に毎年実施をしているが、市内の小中学生は昨年度まで、県の平均はもとより、全国平均で上回ることはなかった。昨年度の全国学力テストでは、教育委員会のいろいろな取り組みが功を奏し、小学6年生の国語A・B、算数A・B、理科の全ての教科で県平均、全国平均を上回った。本年度も小学6年生は全教科で全国平均を上回ったところ。今の教育長になってから、学校での授業改善の努力と家庭学習の取り組みの成果が具体的な形になってきたと思っている。今後ともさらなる学力向上に取り組むと共に、中学3年生については全国平均を全教科で上回ったことがない状況なので、中学生の学力向上に結びつけたい。

2つ目は、全ての小中学校普通教室にエアコン設置ということで、6月末までにエアコン設置をした。

3つ目は、トイレの洋式化。平成28年の洋式化率は24.2%。県内25の市町で最下位。平成29年度に矢板中学校の整備、本年度は東小学校での工事が間もなく始ま

る。また、矢板小学校分も国の予算が付いて、年度内に整備を進めていく。

4つ目は未来基金。5つ目は、小中学校の適正規模・適正配置の建議だが、現在、計画づくりが内部で進められている。

Q1

保護者

基金の4,500万円は、毎年4,500万円なのか？

市長

1. 8倍はそのまま、子どもの数で変動する。医療費助成の申請はお母さん方が多いと思うが、面倒くさいか？

保護者

いつも、1年過ぎてダメですと言われてしまう。行くときが中々無くて。

市長

今回の取り組みはどう思うか？

保護者

現物給付が良い。歯医者へ行くのにも給料日前だしとったりする。子どもが4人いるので、みんなで行きたいとなっても順番となってしまう。

市長

やっぱり手間か？

保護者

手間。平日休みというのが無かったりする。

市長

郵送申請はしたことあるか？

保護者

ない。

市長

郵送でもOKなのは知っていたか？

保護者

知らなかった。窓口にあったので分かったが書くのも手間。

市長

書くのも昔に比べたら簡単になったが。

保護者

少し簡単になっただけ。

市長

現物給付が良い？

保護者

窓口は結構高い。初診料とか検査とか。何人も連れて行くとかかる。

保護者

前は3歳以下が現物給付だったが、今はいつまで？

市長

栃木県全体で幼稚園の年長までは全部同じ。そこから更に引き上げようと市町村独自で小6までとか中3まで、場合によっては高3までもある。

保護者

申請は子どもの手当の時にまとめている。

市長

今までも期間を1年間ではなく、2年にしてほしいと結構言われた。

保護者

今までと反対意見だが、うちは子どもが1人しかいないのと、仕事の時間がフルタイムでも17時までなので帰りに寄る余裕がある。今日も申請してきた。書くのが面倒なので、市のホームページから様式をダウンロードして、全部打ち込んでから数枚印刷しておく。近くなったら印鑑を押して領収書を付けて半年ぐらい溜まったら出している。あまり少ないと手数料がかかり申し訳ないのでたまってから。郵送は不備があるとやりとりが面倒なのでしない。

市長

郵送でやれることは知っていた？

保護者

知っていた。子どもが多かったり、元気な子は怪我や病気も多くなると思うので、そうすると現物の方がと思われる気持ちも分かる。

市長

月曜日だと19時まで開いている。

保護者

知っているが、その時間は忙しい。学童迎えに行ってお飯作って。

保護者

小学生くらいまでを現物にしていただくことは？

市長

小学6年生くらいまで？

保護者

中高生だと体も丈夫になって行くので、病院に行く頻度も歯医者くらい。

市長

この前の矢中PTAの皆さんとの懇談会では、あまり子ども医療費は重視しないというか、あまり病院に行かないとのことだった。

保護者

イメージだが、歯医者、整骨院。

保護者

小学生くらいだと受診する機会が多いから負担が結構あると思う。

市長

各小中学校でも同じような資料で説明するので、その上で来年度以降どうするかを具体的に決めて行きたいと思う。場合によっては皆さんにまたアンケートの協力をお願い

するかも知れないがその時はぜひ、積極的な意見を出してもらいたい。

Q 2

市長

川小の学習環境はどうか？

保護者

フォローする特別クラスがある。同じ事をやらされるよりそういうクラスも必要。

市長

それは今の教育長になってから始まったと思うが・・・。

保護者

支援してくれるクラスは5人位までに限られている？

保護者

川小は1人で見られるのが5人位までなので、何人も行かせたい子はいるけど、制限がかかる。あとは、働き方改革で、学校の時間が毎日45分くらい短くなって朝の読書が無くなったり、家庭学習の時間が増えて家庭でも見られない。学童の先生も困る。

市長

サンサンルームかな？

保護者

そうです。

市長

サンサンルームは名前が付く前に川小は他の小学校がやっていない時期からやっていない？

保護者

きりり教室。入れる人数も限られている。

市長

川小とどこかでやって、うまく行ったということで結構広めている。

保護者

やってもらえると助かると思う。夏休みの宿題もすごく減り、絵画が全く無くなったりどうなのかと思った。

保護者

応募できる物が全然無くなってどうなのかなと思った。

保護者

今年は最低限ドリルと作品1つ。あとは頼まれた子だけ警察の安全マップとか、頼まれた人だけ習字。

市長

それについては校長先生など学校の判断。

保護者

働き方改革で先生が見るのが大変なのだろう。

保護者

だから頼まれた人だけ。絵とかが無かった。

保護者

夏休み明けが心配。

保護者

自主学习ノートもあるが、なかなか大変。親の負担。何をやったらいいか、こういうふうにやったらいいとか、頭のいい子のノートを見て納得はするが、うちは頭が悪い子だから何をやるといいのか、親の負担。

保護者

ノートコンテストに出る子は親のアドバイスがだいぶ入っている。反映されている。

保護者

何人かはそういう子はいるとは思いますが全体的にはあそこまでは。

市長

ノートコンテストは教育長の肝いり。

保護者

学童でやってきてしまうと適当にやってきてしまう。

保護者

やっつけ感が・・・。1ページやればいいと。

保護者

答えが間違っているにもかかわらず適当にマルを付けてきてしまう。

市長

東小の未来づくりミーティングで、学童でもっと勉強をさせたほうがいいとの意見があった。ただ、学童にもいろいろな性格があり、遊び中心とか、ドリルを買ってやらせたりとかという話があった。

保護者

うらやましい。

市長

学童は、勉強を教えなくてはいけないという決まりはない。学童の主因は、聞かれば教える。学童ではなく、放課後子ども教室では、地域のボランティアが運営している。

保護者

学校は毎日45分ずつ早くなっているから、学童にいる時間が長くなった。家に帰って来たら勉強といっても家に帰って来るのが19時でお風呂に入ってお風呂食べて寝る時間になってしまう。

市長

学童は子ども課。小中学校の学校教育は教育総務課で役所の垣根がどうしても出てきてしまう。学童で勉強してもらおう環境を作った方が良くない？

保護者

学童に居る時間が長いから。15時～18時までいるのでやってもらえると助かる。

市長

分かりました。学童でお子さんは宿題をやってくる？

保護者

やってくるけどやっつけ。だから身にならない。誰も教えてくれるわけではないから適当にやってきてしまう。だからもったいない。学校で指導入ってために先生達の赤ペンが入って先生達も大変。何冊かあって、返しきれなかったら2冊目をやる。先生達の苦労も分かるので。でも、きちんと活用すれば、小学校の勉強は平均以上。あれがうまくまわるといいが。

市長

ちなみに川小の学力は？

保護者

この間、校長先生も言っていたが、6年間同じメンバーで行くので、良くも悪くも競争心がちょっと・・・。

市長

競争心がない。

保護者

その代わり仲はいいがポジションアップするために校長先生はやりたいと言っていた。「このくらいのポジションで」とみんな納得してしまう。運動はこのポジション、勉強はこのポジションという格付けが出来たまま。なので、他のもう少し人数がいて競争があるところのほうが。

保護者

習熟度でもっと上に上がれる子は難しい問題にチャレンジできるし、塾に行っている、行っていないで普通教室で差が出てしまう。中学校でなんとか上がって欲しい。

市長

去年全国平均上回った小6は中1だからさらに。

保護者

すごく伸びしろがあるのだからそこをどうにか。

保護者

下の子に引っ張られて、安心してしまう。

Q3

保護者

思春期教室はいつやってくれるのか。

市長

思春期教室は小学生からやった方が良いのか中学生からやった方が良いのか。

保護者

塩谷町も思春期といふとなかなか予算がとれなくて、自殺防止というので去年から塩谷町もやっている。この辺では矢板市以外は全部やっている。

大田原は小学生から。早いところは5～6年生。複式学級もあるので。

市長

心の健康というのは難しい。小学生だから教育委員会かというところではなく、ここでいうと健康増進課。自殺対策までいってしまうと精神障がい的一种という捉え方なので、矢板市だと社会福祉課。健康増進課とか社会福祉課の職員と一緒にやってきた。いろんなところにかかってくる話なので、大人になると自殺対策で生活困窮など関係してくる話。改めて子ども課に話しておく。

自殺対策では、自殺対策の計画を作っている最中なので、それも盛り込める形でやればいい。

Q4

保護者

普通教室にはエアコンは付いているが、理科室とか付いていない。それはいつ付くのか。

市長

分かりません。

保護者

すごく暑くてかわいそう。

市長

先ほど言ったように、塩谷地区、怒られてしまうが塩谷町ですら付いている。

保護者

塩谷町は手厚い。

市長

塩谷町は子どもの数が少ない。学校の数も少ない。小中学校の適正配置の話に繋がってくるが、学校の数が多いと言うことは教室の数が多い。教室の数が多い矢板は、そういった意味で非効率。トイレの洋式化にも多少影響してくると思う。とりあえず、学校施設の整備については、エアコンは普通教室に全部付けた。最悪、授業の振り替えができるかどうか分からないが、暑いときはできるだけ特別教室を使わないようにしてもらおう。もどって、トイレの洋式化に予算を振り向けるようにして次は片小に行く。順番はなかなか難しいが、小中学校の普通教室の次はトイレの洋式化。エアコンについては別の観点から体育館にエアコンを付けて欲しいとの話もある。災害が起こったときの避難所とか、スポーツをやると熱中症になる。夏はあまり気温が高いとスポーツをやらせられないなどあるので、そこは優先順位をどう付けるかを考えて行かなくてはならないと思っている。

保護者

矢中が暑いと思う。矢中は理科室とか勉強するのが嫌だと子ども達が言っている。おしゃれだったり、涼しい学校はいっぱいある。那須塩原市に行くとみんな綺麗。机や椅子も素敵。間仕切り取れば広くなったり。素敵なところだとやる気も出るのかも。

市長

そういうところだと安沢小が一番新しい。平成18年くらい。

保護者

適正配置も気になる。

保護者

川小はいつなくなるのか

保護者

いつも父兄が集まると必ずその話題。

保護者

川小の150周年記念が5～6年後ある。それに向けて予算もとったようだ。

保護者

行政の区長さん達も動き始めている。4月から立ち上げている。

市長

何年後？

保護者

4年後くらいに150周年。

保護者

式典に呼ぶゲストも探している。

保護者

今から動き出さないと予算が取れない。11月に式典と決まっている。

市長

小中学校の適正配置ということで、まだ矢板市として最終的な案は決まっていないが、昨年度、矢板市立小中学校適正配置検討委員会を作り、市P連の役員や小中学生の更には下の世代の市立幼稚園連絡協議会の保護者会の代表、保育所保育園連絡協議会の役員や地元の行政区長、市会議員、大学の先生の17人位で会議を行い、今年の3月にこうした方がいいという提案をもらった。新聞報道等でご承知の通りだと思うが、市内の9小学校を4校。3中学校を2校に統合するという提案がされている。川崎小学校についてはJR宇都宮線の西側は矢小。JR宇都宮線の東側は東小に分割するというような方向性が出されている。

市で現在、具体的にどうするか、いつのタイミングでどんな形にするかの検討も始まった。子どもの数で言うと、川崎小学校の2019年度の児童数は139名。そこから大体横ばいで行くと見込まれている。ただ、文部科学省は小学校については原則1学年2クラス。中学校については1学年3クラスと言っている。校舎や学校運営を効率的にやらせるというのがあるが、先ほどもあったが1学年1クラスだとどうしても、この子は勉強が出来るからかなわないとか、運動はできるからかなわないとか、いろんな意味で序列化が出来て固定化されてしまう。例えばいじめがあった時に引き離すためにはクラス替えという方法があるが、それが1学年1クラスだとずっと付き合わなくてはならない。さらに中学校で1学年3クラスというのは、ご承知の通り教科担任制。小学校は担任の先生が全て教えていると思うが、中学校になると教科ごとにより専門的な教育を受けられる。例えば、泉中学校だと1学年1クラスなので、必要な科目の先生が揃わない。副免と言って本来ではないがその免許で教えてしまう。外部講師の教員試験受か

っていない人を連れてきてということで、なかなか学力は上がらない問題もあり3クラス。川崎小学校は横ばいではあるが2クラスにならない。

保護者

川小はなくなっていくとみんな思っている。矢小と東に分かれてしまう？

市長

矢小と東に分かれてしまうのはどうか？答申を受け取ったが川崎はおおざっぱ過ぎないかと。例えば、木幡西行政区は同じ行政区にしながら分かれてしまう。木幡西は線路ではさんである。例えば木幡西の育成会をどうするのかという話にも直結する。

保護者

今まで西は線路挟んだだけで、一緒に通っていた子が分かれてしまうかもしれない。手続きが色々複雑だろうが統廃合が決まったら早めに言ってもらいたい。西小の話を聞くと、事情はあると思うがどんどん話が進んでいってしまい、あっという間に4月という印象が強かった。

市長

資料を使って説明すると、公共施設から小中学校の適正配置に向けてという事で小中学校の統廃合だけをやっているだけではなくて、矢板市内のあらゆる公共施設をこれから人口減少社会になるので見直すのが前提にある。国は全国の地方自治体に一斉に公共施設のあり方を見直せと総合管理計画とか再配置計画を作れと言うことを平成26年に言い出した。それを受け矢板市でこれまで平成28年度くらいから公共施設白書というものを作った。29年の3月には公共施設総合管理計画というものを作って矢板市内の公共施設、小学校もあれば市営住宅もあれば運動公園も体育館も市役所も生涯学習館も消防団の詰め所も全て合わせて133施設。これを床面積ベースで4割減らしなさい。そうしないと矢板市の財政が持たないという計画を作った。次に公共施設を4割削減するためにはどうするのかの計画が公共施設再配置計画。これが去年の3月に出来た。

矢板市は非常に公共施設が多い。特に市営住宅の100戸辺りの管理個数は栃木県内で一番多い。その一方で市内の民間アパートは空き部屋が目立っているのが問題。あと多いのが小中学校。1学級の生徒児童数は21.4人。29年度の推計だが。塩谷地区の2市2町で一番少ない。さくら市の氏家地区は29.1人。西那須野は27人。1学級辺りの人数が少ないというとは、それだけ教室の数が多い学校の数が多いという話になる。先ほど話をしたとおり、エアコン設置・トイレの洋式化にしても、よその町よりもお金がかかってしまう。矢板市内の小中学校の運営のコストと言うことでは、児童生徒数1人当たりどのくらいかを整理すると、川崎小学校は児童生徒数131人だと、児童1人当たり25万7千円。東小は13万円。豊田に至っては76万9千円。資料にはないが西小は90万円かかっていたという状況。

小中学校適正配置計画の中では川崎小学校は統合となったが、どこと一緒にするという話はなかった。それを昨年度1年間かけて小中学校適正配置検討委員会で検討した。6回にわたり会議を行い、小中学校の保護者向けのアンケートも行っているが、よりよい教育環境を目指すという観点から、学校の統合が選択肢の1つとして考えた時に、考えに近いと思われるものをお答え下さいという質問では、積極的に統合すべきとやむを

得ないを合わせて89%にのぼった。次に、あなたの地域にある小中学校が統合される  
としたれどうしますかとの質問では、賛成する・どちらかといえば賛成するが合わせて  
61%。どちらかといえば反対する・反対するが20%というようなアンケートであっ  
た。答申として出たものでは、泉中学校は矢板中学校へ統合。片岡中学校についても再  
配置計画では廃止だったが、小中一貫教育として残った。泉小学校についても、無くな  
るはずだったが、長井小・日新小・上伊佐野小学校を泉小学校に統合して10年でまた  
かという話もあり、泉地区の公共施設の複合化として残った。具体的には学区をどうす  
るか、どういう順番で統廃合をしていくのか。また、片岡地区の小中一貫校にするにし  
ても、小学校と中学校が一緒になるのでどこに校舎を造るのか、片岡小に寄せるのか中  
学校に寄せるのか、もしくは別に土地を見つけて造るのかお金もかかるし時間もかかる。  
どうですか川小の保護者としては？

保護者

地区が分かれてしまうと。

市長

木幡西行政区を分けてしまうというのは除いて受け止めはどうか？やむを得ない？み  
んなで矢小に行きたいとかみんなで東小に行きたい？

保護者

子ども達の通学の事のためとかもあるので何年か期間をみてもらえれば

市長

何年ぐらい必要か？西小は2年くらいでいった。

保護者

2年だと。もう少しあるといい。

市長

西小は2年半ぐらい。

保護者

きょうだいがいる子もいる・・・。

市長

うちの子どもが卒業するまで待ってくれという話には乗らないと決めている。川小は  
スクールバスはどうか？多分、境林とか館ノ川辺りはスクールバスになってしまう  
と思うが。微妙なのが木幡西とか東はスクールバスではなくてもいいと思うが。

保護者

南は遠い。シャープギリギリは。

市長

安沢小学校の中地区の子どもも東小に来る。

保護者

それが何年後なのか。

市長

何年後？

保護者

準備のために。150周年とか。

保護者

地区の役員とかも大体2・3年までヒモが付いているのでそのくらいの区切りで。

保護者

早く知りたいというのが多いようだ。体操着とかの学用品も気にしないといけないので、未就学の子が上がるタイミングに学区外で先に入れさせてもらいたいとかそんな話がある。

市長

西小については廃止が決まった後の新入生は矢小に行ってもいい。あの時は1年しかなかったが、それでも西小に行きたいと言った子が1人。1年だけ経験させたいと言う子がいたが、それ以外は自由化にしたら行ってしまった。廃止が決まり、まとめて移すのか、新入生を受入れないでだんだんに減らしていくのか。

保護者

最後の卒業生の卒業式は哀しい。

市長

説得するのは楽だが、残された側は保護者も含め寂しい。卒業式は卒業生しかいないというのはあまりよくないやり方。やるのだったら6年間の途中からでも行ってもらうというのがやっぱり必要。

保護者

やっぱりどこかでは。

市長

いずれにしても来年度の最終的な計画が出来たら小中学校単位で、今度はこのテーマということになれば、西小の時もそうだがいっぱい保護者の方に来てもらう。川小については、具体的には豊田小学校は東小学校に行くとか学校ぐるみで簡単。豊田小学校だと100人切っているので50～60人プラスになったところで、東小のキャパ的には受けられると思う。川崎小学校は矢小と東に分けるとしてもJR線の東西というのがいいのかどうか、線路をまたぐのは列車事故等、学校教育の安心安全の確保からすると通学路を分けるというのはどこでもやっていると思うが、スクールバスだったら関係ないと言う話も成り立つ。スクールバスをどの範囲で出すのがいいのか等あるため、川崎小学校の場合、西小みたいには簡単にはいかない。廃止やむを得ないという意見が少なくなかったとしても整備すべき課題がある。いつなのかと言う意見に真正面から答えられず申し訳無いがそんなことなのでご理解頂きたい。

Q5

保護者

学校のエアコン設置を早急に対応したことで、今年は子どももすごく快適に、去年よりは勉強に身が入った。気温が異常に高かったり、湿度が高かったりなので、そこはすごくありがたい。今日はお礼を言いたかった。子ども達は快適に過ごさせてもらい、

これからは勉強を頑張ってもらおう。子育てに関して具体的に対策を打ってもらいたい。子どもが小さいときに予防接種を任意で受けていたので、早めにはじまってもらえればと思っていた。これから子どもが産まれたり、小さい子が居る方にとってはそういうところに助成をしてもらえるのはすごくいいことだと思っている、大田原・さくらに流れて行く中でここにどうしたら留まってもらえるかの政策を考えていると思うので、財源が厳しい中大変だと思うが、引き続き力を入れてもらえる嬉しい。

市長

ありがとうございます。私は歳のわりに子どもが小さく、上の子がまだ小学4年生と2年生。その下にもいる。他の市長よりは現場感覚ではあるかと思うが、そこは大切にしていきたい。

保護者

妊産婦も何かとお金がかかるので、そういったところも。そこから住みやすくなってもらえれば子ども達も減らないようになるのかな。

市長

妊産婦の関係でいうと本年度からだ、産婦健診事業など少し補助を出させてもらった。3才6ヵ月児健診の弱視検査・新生児の聴覚検査も無かったが始まった。安心して出産や子育て出来るよう、産婦健診事業1万円など、産後ケア事業を実施して子育て充実をはかる。これも他の市町もやっていて、広報では重点事業と言っているが、他の市町にくらべると決して早いほうではない。子ども未来基金については子ども医療費の現物給付をどうするかというところからはじまっているので、その恩恵に授かれる方というのは小中高の保護者までになにか恩返しが出来ないものか。

保護者Cさんが言っていたが、未就学児のお子さんを手厚くしていかななくては、さくら市や大田原市に人口流出となってしまう。小学校進学を期にアパートを出て、西那須野やさくら市に家を建てるといふのがあるので、その前段階で手厚くして、矢板もいい町だと思ってもらおう努力も必要。

Q6

市長

今日は話題にならなかったが、小さい学校だと部活が出来ない。学童野球で矢板南ファイターズが県大会で準優勝した。あそこは片小・乙小・豊田小と矢小もいる合同チーム。できれば一体となつてという話はあった。

保護者

学力以外のことも必要になる。

市長

吹奏楽とか今集まらないと言うが、本当は女の子なんかでスポーツは得意では無いが楽器をやりたいという子はいないのか？

保護者

いたとしても音楽を指導するのは。

保護者

もともと吹奏楽がないからイメージもわからないと思う。

保護者

野球だけ。一応サッカーもソフトボールもバスケもあるが、野球しかない。

保護者

だから習い事に入る。

保護者

早く帰るのもそういうのを充実して欲しいと学校からも言われた。

市長

分かりました。そんなことでまたいろいろ教えて欲しい。ありがとうございました。

6 閉 会 20:40